

野球が好きやねん



5

和歌山箕島球友会（和歌山県有田市）に今年1月入団した穴田真規遊撃手(21)は元阪神タイガースの選手だ。早朝からスーパー「松源」の箕島店（同市）で働き、夕方からチーム本拠地「マツゲン有田球場」（有田市民球場）で練習に励む。球場内には高校野球界の名将と言われた、箕島高校（有田市）の元監督、尾藤公さん（2011年死去）が甲子園で選手たちに胸上げされている写真（縦1枚、横1・5枚）がある。

尾藤さんは箕島高を率いて1979年の春夏連覇を含め4回全国制覇を果たした。箕島野球部OBらが中心となって96年に箕島球友会を創設すると、顧問として支えた。県内唯一の社会人野球チームで、昨年の全日本クラブ野球選手権大会では7年ぶり2度目の優勝を遂げた。NPO法人として球場の管理運営を担い、選手の多くは松源で働く。穴田選手は昨年10月、阪神から戦力外通告を受けた。救いの手を差し伸べた。

支えてくれる人がいる

和歌山箕島球友会 （和歌山県有田市）

のは、阪神に入る際にも誘ってくれたスカウトの畑山俊二さん(49)。箕島野球部OBで「絶対、箕島球友会へ行け」と勧めた。穴田選手は幼い頃から野球一筋。野球のない人生は想像できなかった。ただ、大阪府生まれで箕島球友会は未知のチームだ。最終的に決意したのは「自分を選んでくれた人の話だった」からだ。

入団と同時に、松源の御坊店（和歌山県御坊市）でパート従業員として働き始めた。午前6時に出勤。総菜の揚げ物担当で、調理の間は立ちっぱなし。最初は上司から怒られることばかりだった。午後3時に仕事を終えると、球場まで約1時間車を走らせ練習に通った。「絶対やっつけていかれへん」と思ったことも。

それでも、いつかはプロに戻りたい一心で、仕事にも野球にも打ち込んだ。それが評価され、春には正社員として、球場まで車で約10分の箕島店に配属された。4月に開幕した都市対抗野球の予選で本塁打を放ち、勝利に貢献した穴田選手。野球ができるのは「支えてくれる人がいるからこそ」とその喜びをかみしめている。

＝おわり

【道岡美波】

笑穴山貝
で接客する和歌山
スーパーで、穴田選手と和歌山
県有田市で、塚太一撮影

夕便
ゆうびん

